

【米穀情報】

◆第3回お米・穀物産業展、JA全農ラドファなど各出展社がPR

米や米加工品・穀物などの専門市「第3回お米・穀物産業展」が6月9日から11日まで、東京ビッグサイト青海展示棟で開催された。約30社が出展し、健康をテーマに米の需要拡大に向けて多様な食べ方を発信、PRを行った。概要は以下の通り。

【ふくいブランド米推進協議会】県のブランド米「いちほまれ」のPRを一口サイズのミニおにぎりの試食で実施。もっちりとした食感や確かな粒感、冷めてもおいしく弁当にも合うなど、いちほまれの強みを紹介した。またモニターにテレビCMも流し、「いちほまれ」の名前もアピールした。同協議会では今後のPR展開として「米食と健康」をテーマに発信し、CMの放送やイベントでの試食実施など、県内外ともに認知度向上を図っていきたいとしている。

【ミツハシ】「健康はお米から」をコンセプトに、4月に発売した新商品「ノンカフェイン玄米と黒まめのお茶」の試飲PRのほか、栄養価の高い「胚芽の大きな胚芽米」や、具材を挟んで簡単にライスバーガーが作れる冷凍食品「ライスプレート」などを紹介。「ノンカフェイン玄米と黒まめのお茶」は女性誌から取材を受けるなど注目を集め、「胚芽の大きな胚芽米」も問い合わせが増えており、健康意識の高い層へのニーズがあるという。「ライスプレート」は醤油味のほか、五穀、ホワイトなど味を4種類に拡充。バリエーションのある食べ方が提案された。

【ナオイ】300gの真空包装米「二合一会」(にごういちえ)を“お米のプチギフト”として紹介。約半年間おいしさを保持し、袋は自由にデザインが可能なことから、オリジナルのお米のギフトが作れるとPRした。同社は米卸売業として家庭向け・業務向け精米を年間約2万5千トン販売している。主力は業務用で、認知度向上と販路拡大を図ることができればと今回出展に至ったという。

【JA全農ラドファ】今夏発売の新商品のパックご飯「農協ごはん」を紹介。原料に国産米を使用していることや、ガス直火炊きと余分な水蒸気を発散させる「シャリ切り」など“ごはんのおいしさ”を追求した独自製法をアピールした。同商品は全農がパックご飯事業へ本格参入後、初の商品となる。ブースでは農協牛乳なども並べ、農協シリーズ商品として馴染みのあるオレンジと白のパッケージが揃う形で統一性をもったPRを展開。来年には新工場の建設も予定しており、安定した供給を目指していく。また米の新銘柄が続々登場する中、品種ごとのおいしさを提供するため、各産地銘柄米のパックご飯の受託製造にも取り組むという。

【加戸米飯】「オートミール風有機玄米」(200g)など自社商品の試食PRを実施。同商品は石川県産の有機玄米を100%使用した玄米フレークで、昨今認知度が高まるオートミールのような使い方ができる。味の良さが好評で、問い合わせが増えているという。またそのままで玄米チップスに、お湯をかけて雑炊に、さらには揚げ物の衣に混ぜるなど、幅広い用途に対応した食べ方が可能なことも特長。同社ライスブランニング事業部担当者は「用途をアレンジできる材料としてPRすることで、食事に玄米を取り入れるきっかけになれば」と話した。

【週間売れ筋ランキング】定番銘柄の補充

(6月7日~6月11日)

(産地品種別)

(品種別)

(日本農産情報調べ)

順位	産地	品種	俵数	順位	品種	俵数
① ↗	福島	コシヒカリ	1,940	① →	コシヒカリ	4,852
② ↘	茨城	コシヒカリ	1,491	② →	あきたこまち	3,469
③ ↗	岩手	中米	1,260	③ ↗	くず米選別	2,165
④ ↘	秋田	あきたこまち	1,088	④ →	中米	1,930
⑤ ↗	岩手	あきたこまち	1,087	⑤ ↗	ひとめぼれ	1,878
⑥ ↗	国産	くず米選別	1,085	※コシヒカリ、あきたこまち、ひとめぼれなど定番銘柄の補充手当て中心。それぞれ必要最小限にとどまる。品種別の出来高(前週比)は、コシヒカリ76%、あきたこまち72%、ひとめぼれ220%、中米84%、くず米選別247%。		
⑦ ↘	青森	まっしぐら	1,012			
⑧ ↗	宮城	ひとめぼれ	950			
⑨ ↗	宮城	つや姫	911			
⑩ ↗	東北	くず米選別	870			